

## 【研究機関紹介】

# ヨーク大学社会科学研究所

牛丸 聡

## 1. 英国とヨーク

11年余政権を担当したサッチャー首相が辞任をし、英国もまた従来とは異なった道を歩み始めた。確かに現在の英国は経済的に他の先進国よりも遅れをとっているが、伝統をもったその社会やそこで行われている学問から得る事柄も決して少なくない。

1989年7月から1990年9月にかけて、その英国のヨークという街に滞在する機会を得た。サッチャー政権下で、NHSをはじめとする社会保障制度の改革が、特に、その分野における私的活動の拡大が検討されていた。そのような時期の英国に、しかも、NHS改革案に対する評価・検討をはじめとする多岐にわたるヘルスエコノミクス（医療経済学）研究が盛んなヨーク大学に滞在することができた事は喜びであった。

本稿は、客員研究員の資格で滞在したヨーク大学内にある社会科学研究所、および、そこでのヘルスエコノミクス研究の一端を紹介しようとするものである。

まず1では、その研究所が位置するヨークという街について、また、ヨーク大学について簡単に説明しておこう。続く2では、ヨーク大学内にある社会科学研究所について、さらに3では、ヨーク大学・社会科学研究所内で活発に行

われているヘルスエコノミクス研究に関して述べることにしよう。

ヨークは英国の中のイングランド北部、ロンドンとエディンバラとのちょうど中央に位置している。ロンドンのキングスクロス駅を出発した列車（インターシティ）は2時間少してヨーク駅に到着する。

ヨークは歴史街として知られている。歴史的建物を随所に見ることができる。なかでも、街を囲む城壁とヨーク・ミンスターと呼ばれる教会、および、昔ながらの町並みがヨークのシンボルとなっている。観光都市となっているが、ヨークは歴史のある静かな街である。

ヨーク大学は、そのようなヨークの中心街からバス・タクシーで15分、歩いて1時間のところに、人工池を囲んで建っている。創立後27年しか数えていないものの、1988/89年時点で、およそ3,100人の学部生、1,050人の大学院生が学んでいる。多くの学科から構成されており、その中のいくつかの分野では良く知られた大学となっている。特に、ヘルスエコノミクス研究が盛んなことでは有名である。

## 2. IRISS

ヨーク大学の社会科学研究所 (Institute for Research in the Social Sciences, 略称 IRISS) は大学キャンパス内にあり、1982年10月に設立

されている。それは、ヨーク大学における社会科学の中心的役割を担っている。上記の如く、ヨーク大学は多くの学科から成り立っているが、当該研究所はそれらの学科の中から、経済学および関連研究学科、哲学科、政治学科、心理学科、ソーシャルポリシーおよびソーシャルワーク学科、そして、社会学科の参加をもって構成されている。この事柄が示すように、IRISSは社会科学者間で行われる学際的研究を意図してつくられている。また、注目されることは、政府機関からの委託研究も多いためか、研究が純粋理論の世界だけで終始するのではなく、実際の政策という視点を失わずに行われている点にある。防衛の経済学(Defence Economics)を専門とするキース・ハートレイ(Keith Hartley)教授を所長に、数多いスタッフが研究を行っている。現在では、社会科学に関する研究所として英国の中でも重要なものの1つと数えられている。

研究所内で行われている研究領域は多岐にわたっている。以前は、下記の8つのユニットから構成されていた。

(1) Addiction Research Centre, (2) Centre for Experimental Economics, (3) Centre for Health Economics, (4) Centre for Southern African Studies, (5) Institute of Social and Economic Research, (6) Social Policy Research Unit, (7) Women's Studies, (8) York Health Economics Consortium

最近になり、2つのユニットが追加された。

(9) Centre for Defence Economics, (10) Centre for Housing Policy

以下、上記の各ユニットに関して簡単に説明しておこう。

(1)では、例えばアルコール・喫煙分野の予防



ステイブルと呼ばれるIRISSの古い建物

政策に対する障害の研究等が行われている。わが国では、あまり発展していない分野だが、英国では、アディクション(アルコール・喫煙におぼれること)の社会的費用、あるいは、それを抑制する政策等に関する経済的研究は盛んである。

(2)では、例えば不確実性下の経済行動の考察がコンピューターを用いて行われている。その応用問題として、消費・貯蓄などが研究されている。

(3)については、後述する。

(4)では、南アフリカに関する研究が行われ、もっぱらこのテーマだけを扱うアカデミックな学科としては英国の大学の中でも貴重な存在となっている。ネルソン・マンデラ氏の行動を通してこのテーマに対する世界的関心が高まってきたが、このユニットの重要性は今後益々高まるであろう。

(5)はIRISS以前にあった研究所のテーマを受け継いでいるが、そのうちヘルスエコノミクス関係のテーマについては(3)のユニットに委ね、現在ではそれ以外のテーマ、例えば公共部門の効率性、金融・外国為替市場、慈善、国有化企業、民営化、および、規制などを扱い、さらには新しく公共選択という問題(官僚・政治

組織の研究, 公共部門会計, 地方政府) をも取り上げている。

(6)は, ソーシャルポリシーやソーシャルワークが扱うテーマを研究している。その仕事の一部は, Joseph Rowntree Memorial Trust によって始められたプロジェクトを受け継いだものだが, 現在では, それに加えて, さらにその分野の多くの問題に関する研究を行っている。

(7)は, その名前が示す通り, 女性に関して社会科学の視点から学際的に研究するユニットである。ヨーク大学は, ウーマンズ・スタディーの大学院コースがあることでも世界に知られている。

(8)は, 医療機関に対して, 相談, 訓練・教育, 短期研究サービス等を提供するためにつくられたものである。

(9)・(10)は1990年5月に新たに追加されたものである。(9)は, 防衛の経済学, 軍縮・平和等に関する研究を行うものである。

(10)では, その名前が示すように, 住宅政策の問題が扱われている。

以上に示したように, IRISS は多くの興味深いユニットから構成されている。

### 3. ヌーク大学におけるヘルスエコノミクス研究

2において, IRISS 内にある10のユニットを紹介したが, その中でも特にヘルスエコノミクスセンター((3)) (CHE) が重要である。ヨーク大学は様々な形でヘルスエコノミクスと関わっている。教育という点では, 経済学および関連研究学科内にある大学院のコースが注目される。それは, 英国人学生はもちろんのこと, 各国学生に開かれているヘルスエコノミクスを学

ぶための修士・博士コースである。

研究および社会への影響という点では, 上記のヘルスエコノミクスセンター (CHE) が注目される。それは, 医療需給に影響を与える要因およびヘルスケア提供の帰結に関する研究・訓練を行う場として, 1983年にいくつかの政府機関によって設立されたものである。そこでは, より良い医療の提供を求めて医療問題に関心ある経済学者, 心理学者, 社会学者, 統計学者, および, 医療従事者が一緒になって仕事をしている。

現在, 以下に示す6つの主要なトピックにグループ分けされている。

(a) Influences upon Health, (b) Outcome Measurement, (c) Primary Care, (d) Health Manpower, (e) Transition to Community Care, (f) Technology Assessment

いずれのグループにおいても, 専門の研究者によって高度な研究が行われている。ヨーク大学内には70名以上の研究者が医療問題を研究している。これだけの人材を擁するヨーク大学は医療経済学の研究者にとって研究の宝庫といえよう。

CHE からは多くの有益なディスカッション・ペーパーも出されている。政府から1989年にNHS 改革案に関する白書, *Working for Patients* が出版されたが, その白書に関して分析された研究がCHE からオケージョナル・ペーパーとして出されている。また, CHE 関係の研究者によって書かれ, 1990年に出版された著書, *COMPETITION IN HEALTH CARE-Reforming the NHS*, Macmillan Press, もあわせて注目すべきものである。

この原稿を書きながら, 私の脳裏には, コーヒー・ブレイクの際に, 拙い私の英語に耳を傾

けてくれた IRISS の研究者 および 秘書の方々の笑顔が浮かんできた。良き人々に囲まれたそこでの生活は私にとって素晴らしいものであっ

た事を最後に付け加えて、本稿を終えたい。

(うしまる・さとし 青山学院大学経済学部助教授)